

幸田町安全テラスセンター 24 事業計画書

令和 4 年 3 月

幸 田 町

目次

1 幸田町安全テラスセンター 24 とは.....	1
1.1 「幸田町安全テラスセンター 24」の役割.....	1
1.2 テラスの位置づけ.....	2
2 幸田町の防災の現状.....	3
2.1 幸田町の防災力の現状.....	3
2.2 現状の課題	4
2.3 町民の「防災」への要望.....	10
2.4 テラスの認知度	11
3 基本方針	13
3.1 基本方針	13
3.2 戦略（テラスの 3 本の矢）	14
3.3 行動指針	14
4 事業概要	16
5 体制	18
5.1 体制の考え方	18
5.2 体制	18
6 交流の場が作る啓発活動.....	23
7 テラスサポーターを巻き込む活動.....	26
7.1 テラスによる広報活動.....	26
7.2 様々な主体による広報活動.....	27
8 テラス運営計画	28
8.1 テラスアドバイザー	28
8.2 年間計画	31

1 幸田町安全テラスセンター24とは

1.1 「幸田町安全テラスセンター24」の役割

近年、全国各地で大規模な災害が発生しており、着実な防災・減災対策の推進が必要となっている。そのような中、幸田町は地域防災計画に基づき、幸田町業務継続計画（BCP）の策定・運用や各種防災訓練など、様々な取組を実施しているところである。

災害時にまず守るべきは、自分の命・家族の命であり、急に起こる災害で命を落とさず、命をつなぐためにも、住宅の耐震化、家具の転倒防止や備蓄など家庭内の対策（自助）を進めることが基本である。そして、高齢者や障がい者など要配慮者の把握やお互いの助け合い（共助）を円滑に進めるため、自主防災組織や人同士のつながりの育成・強化が重要である。また、あらかじめ計画を立て、発災時において、迅速かつ効果的な行政の支援（公助）を実施することが必要とされている。

このようなことから、いつ起こるかわからない大規模自然災害に対し、24時間365日いかなる時も、自らの命は自ら守り、地域でお互いを助け合い、行政による計画的で効果的な災害対応によって、非常事態を町全体で乗り越えていくためには、常日頃から住民が防災・減災の意識を高め、住宅の耐震化や家具転倒防止など具体的な行動をとるとともに、地域防災を支える人同士の交流や連携を構築できる仕組みづくりが急務とされる。

これらの課題に対し、「災害に強いひとづくり」を目的とし、「防災を学び・実践し続ける道場」と「災害時にすぐに正しく活動できる体制」をミッションに据え、多様な参加者の多角的な交流・学びによって防災・減災を推進する「幸田町安全テラスセンター24（以下「テラス」）」を設置することにより、災害に強いまちづくりに寄与する。

本基本方針では、自然災害を対象に考えているが、将来的には交通安全や防犯等を含めたまちの安全安心の拠点とすることも見込んでいる。

目指すもの

災害に強いひとづくり

ミッション

防災を学び・実践し続ける道場
災害時にすぐに正しく活動できる体制

図 1.1 テラスの役割

1.2 テラスの位置づけ

テラスの位置づけは、第6次幸田町総合計画における「防災体制の強化」とする。

テラスでは、地域の住民・事業者と行政の防災・減災に関する取組を支援するとともに、それぞれが自ら考えて行動し、お互いにつながりを持った活動へ展開することにより、24時間365日いかなる時も、大規模自然災害を迎え撃つことができる防災体制を構築する活動を推進する。

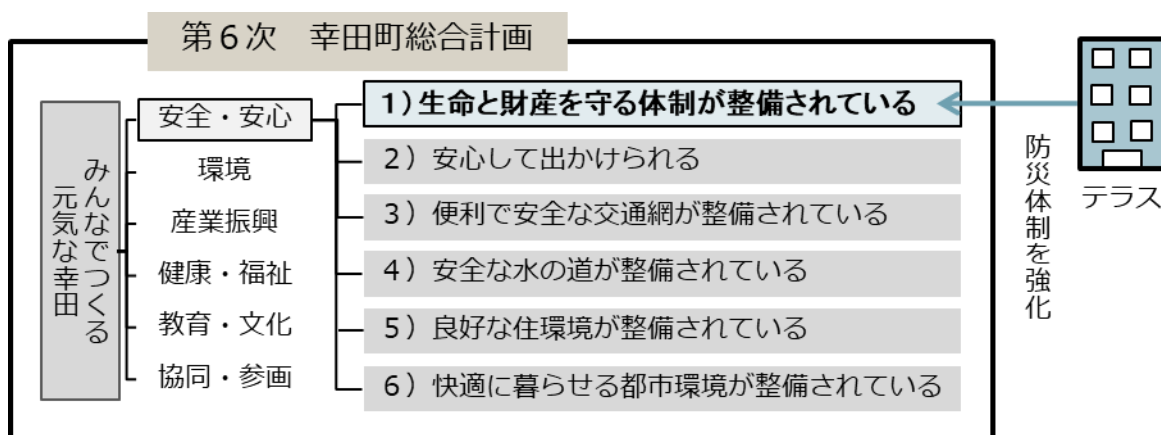


図 1.2 第6次幸田町総合計画におけるテラスの位置づけ

2 幸田町の防災の現状

2.1 幸田町の防災力の現状

幸田町の防災力を図る基礎データを以下に示す。

表 2.1 本町の人口等に関するデータ

基礎データ（令和3年4月1日時点）		地域防災力の担い手	
人口	42,658 人	幸田町消防団	
世帯	16,627 世帯	団員数	147 人
高齢化率	21.4% (9,126 人)	編成	1 団 4 分団 8 部
75 歳以上人口割合	10.1% (4,310 人)	平均年齢	28.8 歳
ひとり暮らし高齢者	1,484 人	機械器具等	消防ポンプ自動車 4 台
65 歳以上のみ高齢者世帯	3,162 世帯		小型動力ポンプ付積載車 4 台
身体障がい者	1,205 人	自主防災組織	
精神及び知的障がい者	791 人	組織数	23 区（各行政区）
外国人	1,393 人	機械器具等	可搬ポンプ 24 台

2.2 現状の課題

(1) 町民の防災意識

幸田町では、令和3年6月～7月の期間において、町内の防災意識の現状および対策における理解度ならびに潜在的なニーズを調査し、今後の活動、計画に反映させることを目的とした幸田町防災意識調査（以下「防災意識調査」という）を実施した。

意識調査結果の分析により得られた、町民の防災意識について示す。

- 地震・風水害被害への防災意識・関心は特に高く、反面、町内で大規模な災害の被害が想定されていない土砂災害への関心は低かった。
- 災害時における身の回り（自身の安全および家庭における防災対策）への関心は高いが、それを補完するための防災力向上の活動や、区および町の防災対策については関心が低いという結果となり、その割合は各年齢層に共通していた。
- 防災意識についての関心の高い層は「女性・中高年」、関心の低い層は「男性・40歳代～60歳代」に分布していた。

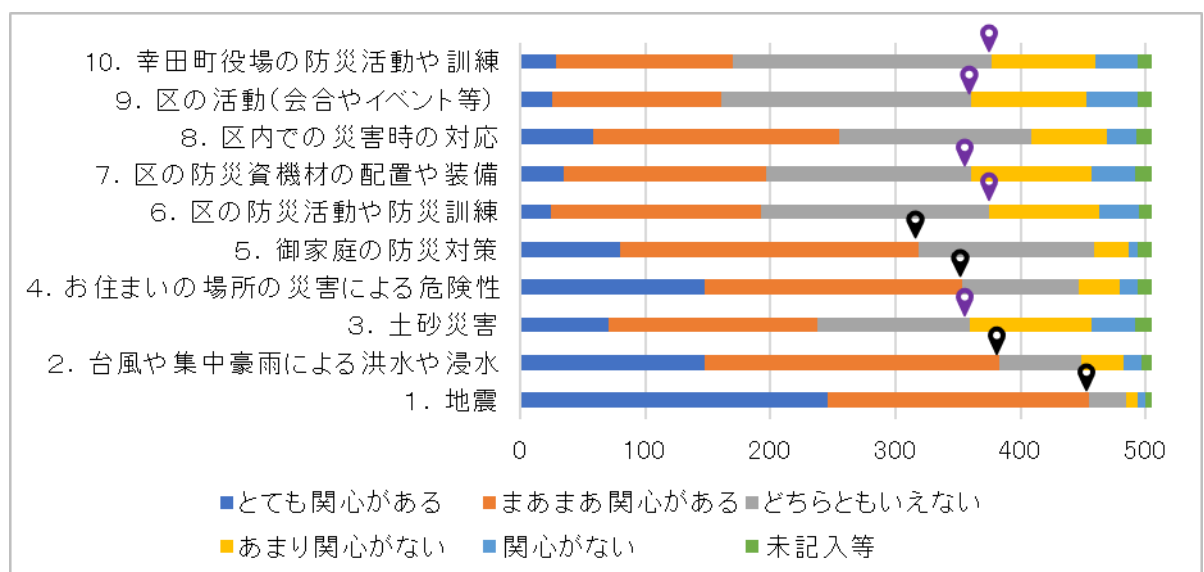


図 2.1 防災意識調査結果

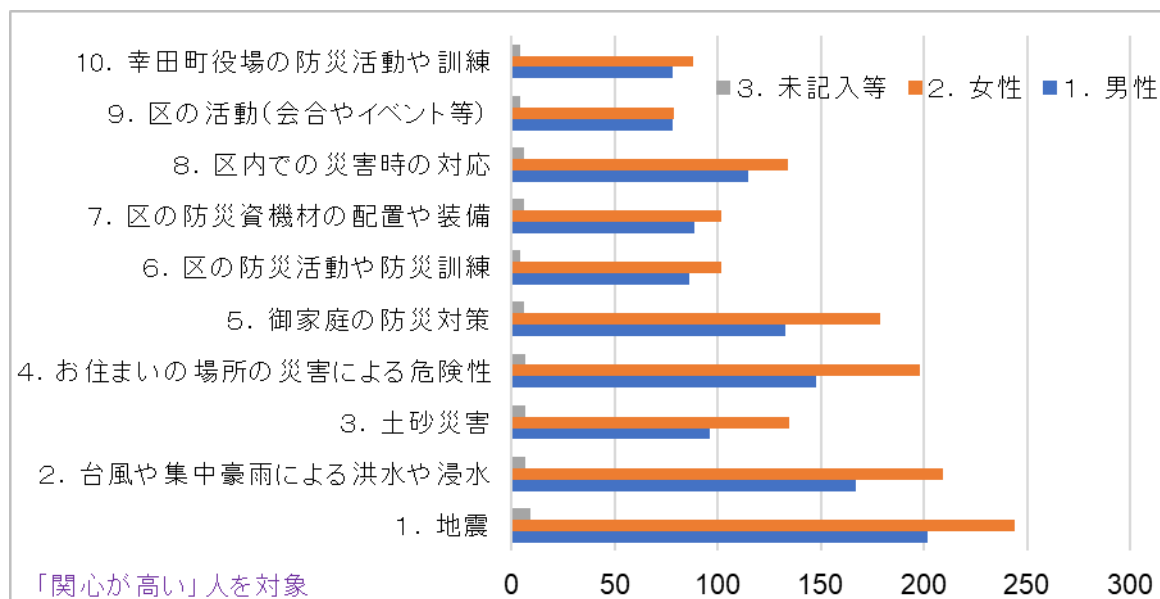


図 2.2 関心が高い人の特徴（男女別）

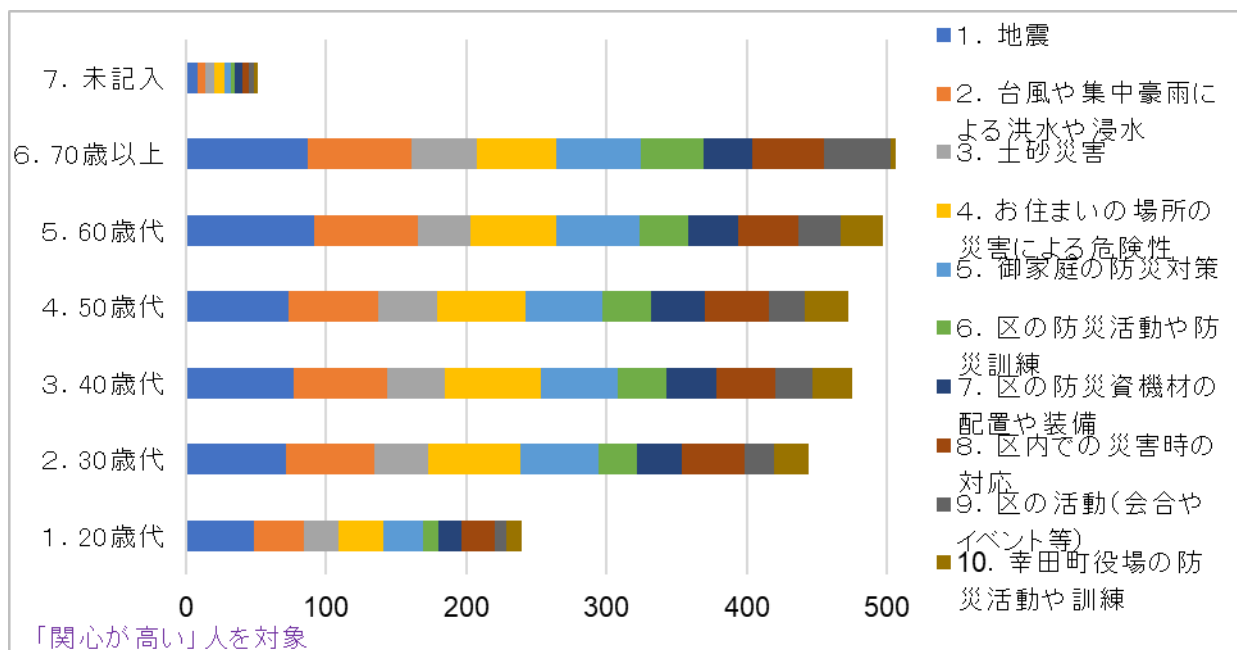


図 2.3 関心が高い人の特徴（年代別）

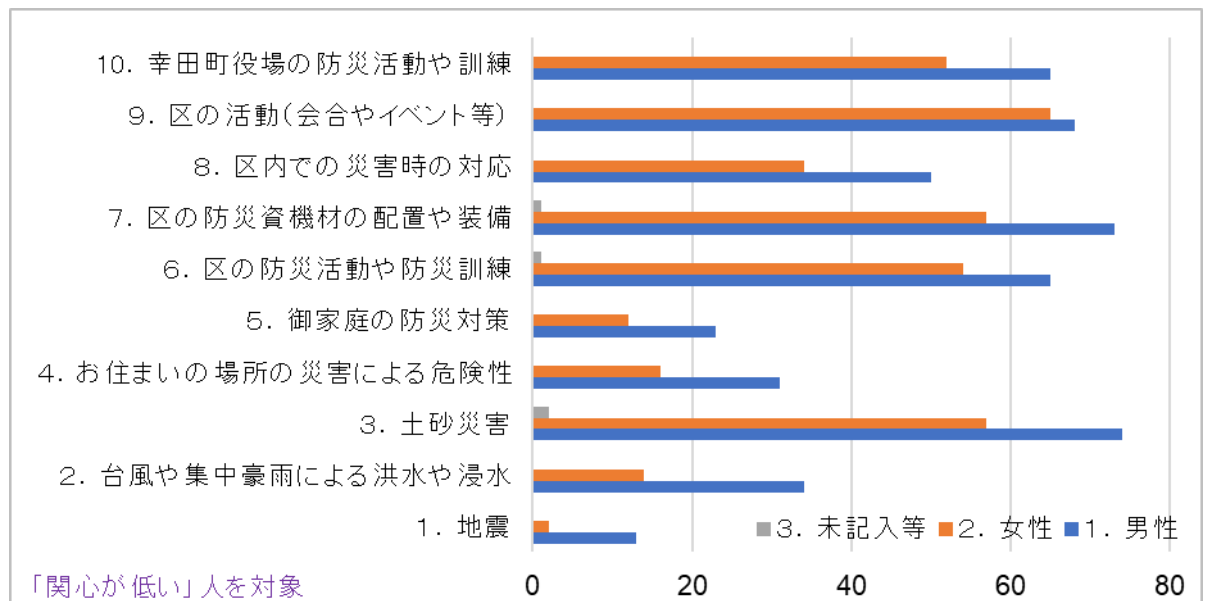


図 2.4 関心が低い人の特徴（男女別）

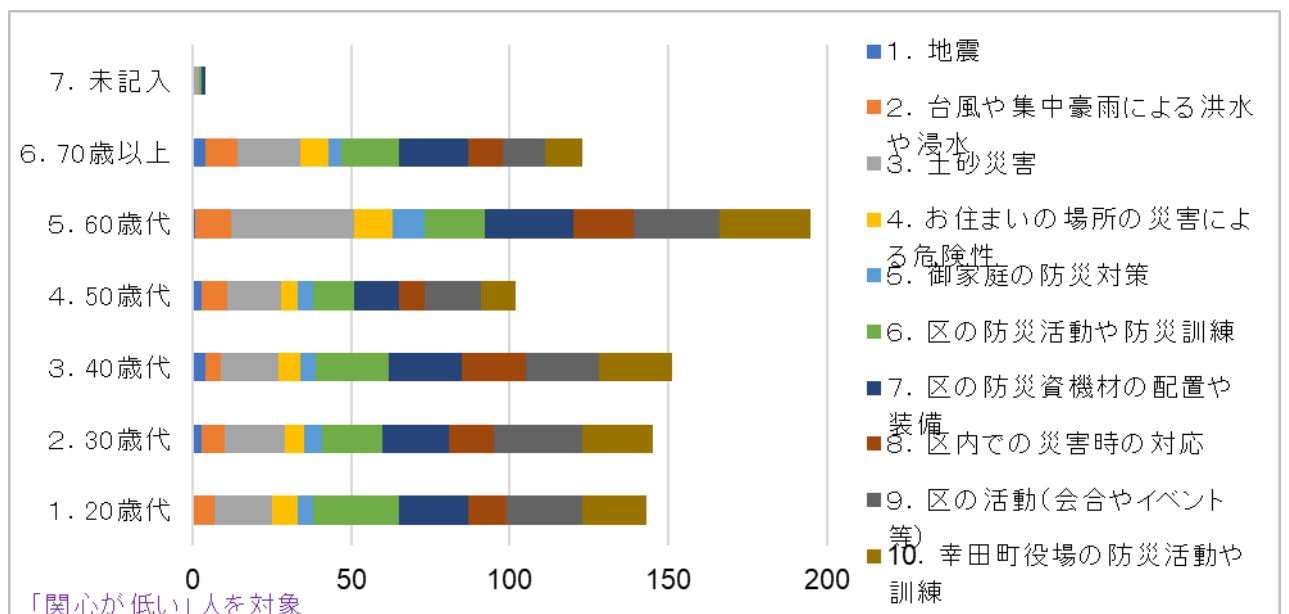


図 2.5 関心が低い人の特徴（年代別）

(2) 地区の防災活動の課題

本町における地区の防災活動は、各区の自主防災組織が主体となっている。

各区においては、地区の防災力向上のため、防災訓練等を実施しているが、区長、防災リーダーを対象としたアンケート結果を分析すると3つの課題が見えてくる。

1つ目は、「危機意識の低さ」である。災害に対して「我がこと」と考えられないため、備えが進まず、活動も他人任せとなってしまう。

2つ目は、「防災活動の体制」である。防災を含む各区の活動の多くは区長が主導しているため、業務の負担が大きくなっている。また、区長のほとんどが、1年で交代するケースが多く、地区防災活動を継続して推進することが難しくなっている。

3つ目は「『共助』の意識の低下」である。近年、人口が増加する一方で、ご近所同士の付き合いが希薄になってきており、いざという時の助け合いに不安がある。

これらの課題の根底にあるのは、「自分は大丈夫」との思い込み（正常化の偏見）がある。この思い込みをなくすには、防災・減災について正しく学び、正しく恐れ、正しく備え、行動する意識を高める必要がある。

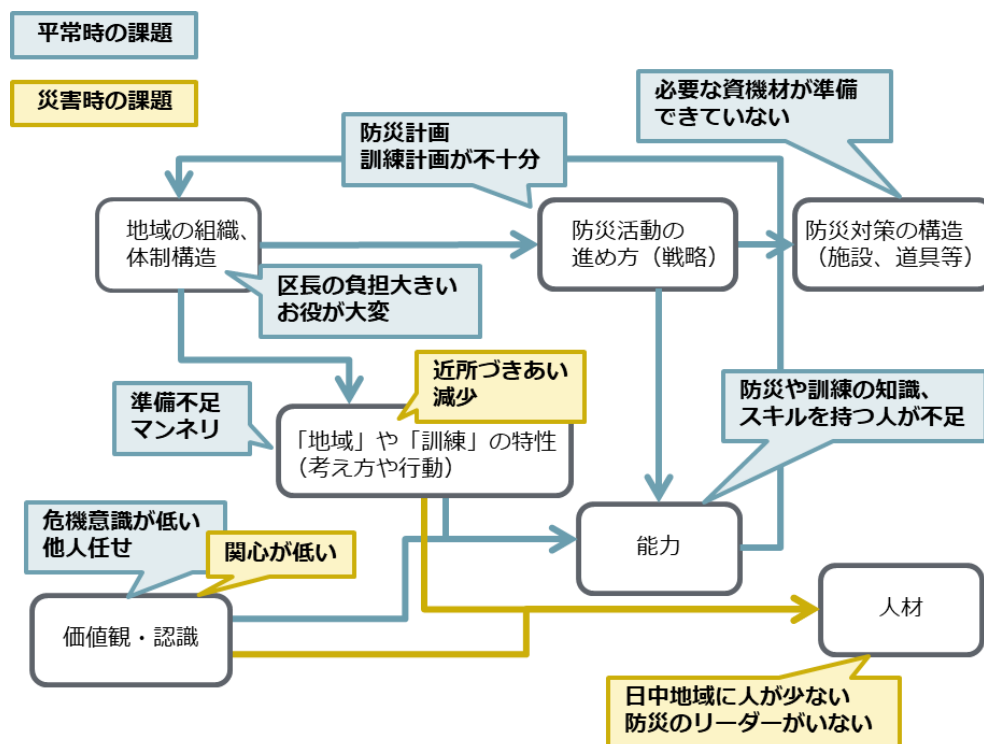


図 2.6 地区の防災活動における課題

(3) 家庭の防災対策の課題

子育て支援センター（上六栗及び菱池）利用者（67人）及び地域安全女性推進委員（23人）を対象に、家庭の防災対策に関するアンケートを実施した。アンケートからは、一般的な女性住民の防災に対する意識がうかがわれ、防災に対する思考が表面的で、自分事として消化されていないと考えられる。

- 被災後の生活に対する不安
- 何らかの防災対策を行っているが、自信がない。
- 地域等の防災活動に対して消極的

① 子育て支援センター（上六栗及び菱池）利用者 67人

「災害からわが子を守る防災教室（令和3年1月13日開催）」のテーマ設定にあたり、令和2年9月16日（水）～10月16日（金）の期間、子育て支援センター（上六栗及び菱池）利用者67名を対象に、家庭の防災対策に関するアンケートを行った。結果は以下のとおり。

Q1. ご家庭の防災対策は？（いずれか一つ）

「どちらかというとあまりできていないと思う（52.2%）」、「全然できていないと思う（13.4%）」及び「あまり考えたことがない（6.0%）」を合わせると、7割以上の方が家庭の防災対策に自信がないことがうかがえる。

Q2. 心配な災害は？（複数回答可）

ほぼ全員「地震（66人）」が心配との回答であった。次いで、「風水害（29人）」、「土砂災害（6人）」が心配されているが、自宅等の場所により選択が分かれている。

Q3. 災害が発生した時に心配なことは？（複数回答可）

最も多かったのは「小さなお子様を連れた避難所での生活（59人）」で、子育て世代を対象としたことによる結果がうかがえる。次いで「自分や家族の命、身の安全の確保（58人）」、「電気・ガス・水道等のライフラインの停止（42人）」であった。自らと子どもを始めとした家族の身の安全の心配と、その後の生活に対する不安が見受けられる。

Q4. 防災に関する講座やイベントがあったら参加しますか？（いずれか一つ）

「時間があれば参加したい。（88.1%）」が最も多かった。参加しやすい環境づくりが必要である。

② 地域安全女性推進委員 23人

「幸田町地域安全女性推進委員会」にて、地区防災に関する意見交換を行うにあたり、家庭の防災対策に関するアンケートを行った。

Q1. ご家庭の防災対策は？（いずれか一つ）

「どちらかというとあまりできていないと思う（69.6%）」、「全然できていないと思う（4.3%）」及び「あまり考えたことがない（6.0%）」を合わせると、7割以上の方が家庭の防災対策に自信がないことがうかがえる。

Q 2. 心配な災害は？（複数回答可）

ほぼ全員「地震（21 人）」が心配との回答であった。次いで、風水害（9 人）、火災（6 人）が心配されている。地震以外の災害については、住んでいる地域のハザードによって回答されている。

Q 3. 災害が発生した時に心配なことは？（複数回答可）

最も多かったのは「自分や家族の命、身の安全の確保（19 人）」であった。次いで「電気・ガス・水道等のライフラインの停止（15 人）」、「トイレ問題（15 人）」であった。被災後の生活に対する不安がうかがえる結果となった。

Q 4. 各区の防災訓練に参加したことがありますか？（いずれか一つ）

何らかの形で「参加したことがある（15 人）」はいるが、多くは「お役として参加したことがある。（9 人/15 人）」であった。また、「参加したことがない（8 人）」がいる。参加しやすい訓練内容や周知等が必要である。

2.3 町民の「防災」への要望

意識調査結果から、「自分自身及び家族」、「地域」、「役場」に対する防災の期待と要望は、以下の8項目に分類される。

表 2.2 町民の防災への要望

①防災について話し合う場の創出	• 様々な人と話し合う場、知識を得る等の「学びの場」 • 地域の人々との交流、顔の見える関係づくり等の「地域交流」 • 防災意識を高める、災害に備える等の「意識向上」
②防災対策の講習	• 幸田町という地域についての基本的な事項、最新の対策等を得るための「知識の習得」が必要 • 身近な講習の機会や定期的な学び等を得るための「学びの場」が必要 • 具体的な方法を知るための「対策の習得」が必要 • いざという時、すべきことを知るための「災害時の行動」を知りたい • 防災について意識を高める等の「意識向上」が必要
③避難行動や、災害時の対応に関する講習	• 「落ち着いた行動」ができるようにしたい • 「具体的な行動」「行動の流れ」を知りたい • 「災害時の行動のスキル・ノウハウ」を身につけたい • 必要な情報や前もって知っておくべき「知識の習得」をしたい
④避難場所や避難路の確認・検討	• 避難場所、避難経路や危険箇所等の「現状の対策の確認」をしたい • 「災害時の行動のスキル・ノウハウ」を身につけたい • 必要な情報や前もって知っておくべきことについて、「知識の習得」をしたい • 「家族との話し合い」に活かしたい
⑤家具や什器の固定や落下防止対策の講習	• 「対策の知識」「対策方法」を身につけたい • 身近で講習の機会、防災意識を持ち続ける機会等の「学びの場」が必要
⑥自治会の防災活動への支援	• 地域の防災活動の底上げ、助け合い意識の向上等の「意識向上」策が必要 • 各自治区の人、物、金の支援、活動の継続等の「継続的な支援」が必要 • 自治区の人材育成、区長や役員への「知識やノウハウの提供」が必要
⑦職場の防災対策、BCP作成の講習	• 「具体的な行動」「行動の流れ」を知りたい • 「災害時の行動のスキル・ノウハウ」を身につけたい • 職場の防災を進めるための「学びの場」が必要
⑧町への要望の受付	• 「施策へ反映」するための要望の窓口が必要 • 気軽に質問できる場、いつでも要望できる等の「受付方法」の改善が必要

2.4 テラスの認知度

防災意識調査では、回答者の93%はテラスを認知していない。テラスを認知している回答者に男女差は少ないが、年齢を見ると特に若年層の認知度の低さが目立つ。

防災意識調査では、「防災意識調査票が届くまで、役場の取り組み等を知らなかった」「まずは、テラスを知ってもらう必要がある」という意見も少なくないことから、テラス及び役場の取り組みが伝わっていない状況が伺える。特に若年層への広報活動の改善を図る必要がある。

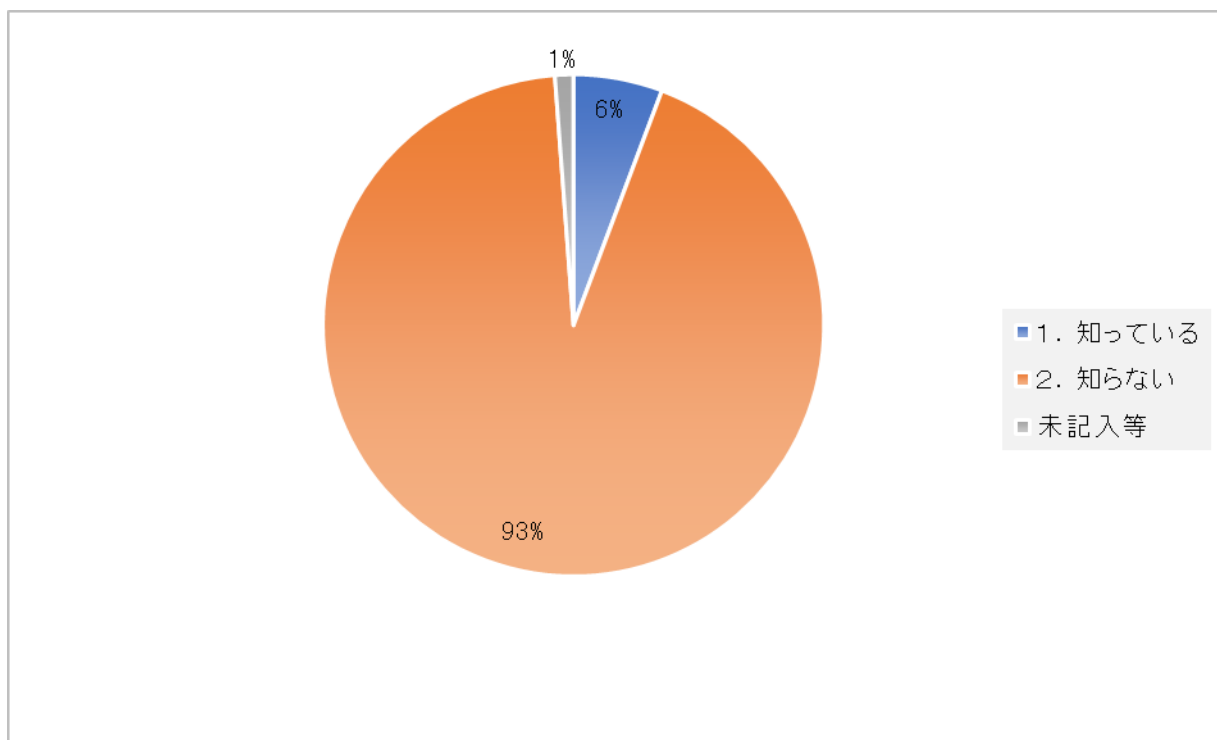


図 2.7 テラスの認知度（1）

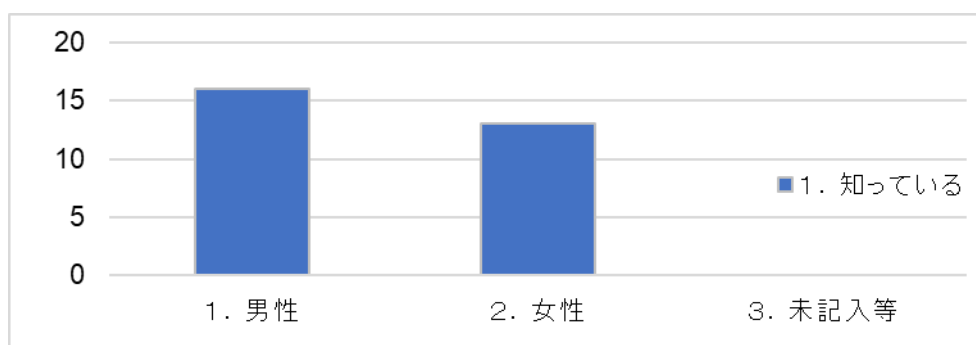


図 2.8 テラスの認知度（2）

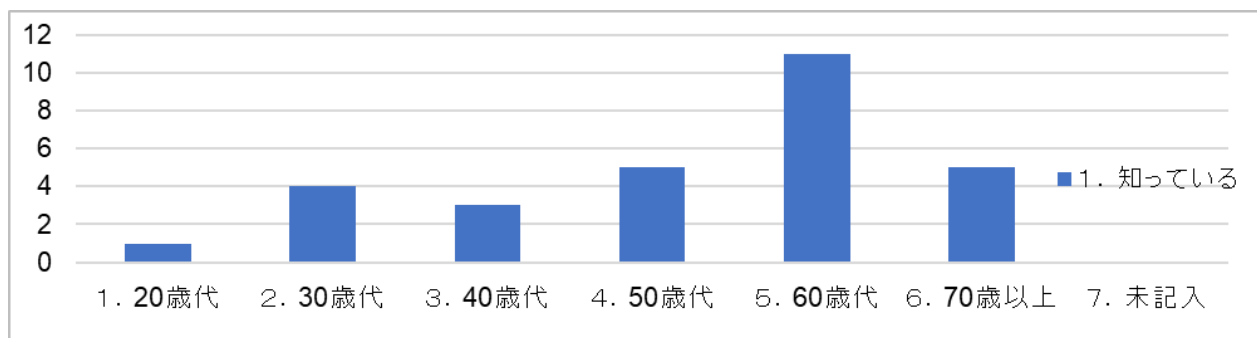


図 2.9 テラスの認知度 (3)

3 基本方針

3.1 基本方針

町全体の防災対策を進めるうえで、多くの住民や事業所、地域、行政職員が防災意識を高く持つことが必要不可欠である。しかし、それぞれが別々に活動するだけでは、来たるべき大規模自然災害を迎え撃つことは困難である。そのため、テラスはそれぞれ主体の状況に応じた防災・減災の取組をサポートするとともに、防災意識の高い人たちがつながり、その輪が様々な人を巻き込んでいくことで成長していく体制を作り、ソフト面から「災害に強いひとづくり」を、ひいてはハード対策を含めた「災害に強いまちづくり」を推進していく。

また、災害時に、見知らぬ人同士が急に助け合ったり、協力したりすることは難しいので、日頃からの近所付き合いやコミュニケーションが大切である。地域には区の枠組みだけでなく、多様な活動をするグループや事業所もあり、それぞれの得意分野を活かした活動によって、地域全体が豊かに安全になっていくことが期待される。

そのためテラスは、多様な地域活動の担い手や防災・減災に取り組む人々が「つながる」活動に取り組む。多くの住民が自ら考え、行動するための学習に取り組めるように支援する。その結果、多くの人がつながり、得意分野を活かしつつ支え合う絆が形成され、日頃から住みやすい地域となっていく。それが、災害時にも力強く活動できる力になる。

このことから、テラス活動（防災啓発・普及活動）は、防災・減災を学びあうことで「ひとのつながりを生み、支えあう地域社会を育てる」ことを基本方針として掲げ、事業を推進していく。

なお、消防本部内の「テラス」では、24時間365日、まちの安全安心を見守る体制及び機能を有する組織とする。いつ大規模自然災害が発生しても、迅速かつ的確な災害対応に移行できるよう、従来の消防・救急業務に加え、平常時からまちを知り、人を知ることがを心掛ける。地域の人々や地域の特技を活かした災害対応が行えるよう、全庁と連携し業務を改善し、災害対策本部の初動の役割を有するものとする。

3.2 戦略（テラスの3本の矢）

テラスは、次の3本の矢を軸に、防災・減災意識が高く、自ら判断し行動するひとづくりの取組を推進する。

(1) 地域のつながり

災害時には地域で助け合い、協力することが困難に立ち向かう力となる。日頃から地域住民が協力できる関係を築き、多様な地域活動の担い手や世代がつながるよう支援する。これが、平常時の地域力を向上させ、災害時の対応力も高めていく。

- 「お互いさま」の関係を築く、防災を通じたコミュニティづくり
- 地域の変化や災害に積極的に対応できる体制づくり

(2) 継続的な学び

住民の防災意識を高めるため、防災・減災に関する学びの場を創出する。年齢、性別にとらわれず、防災・減災に関する基本的な知識を取得し、体験や訓練を通じて行動力を培い、災害に強い人材を育成する。

- 災害時に自ら判断し、行動できる人材育成
- 小中学校教育の中で、幸田町の地域特性を踏まえた災害を学ぶ場を提供し、防災教育のレベルアップに協力する。
- いつでも、どこでも使える学びの場の創出

(3) 日常からできる備え

いつ襲うかわからない大災害を迎え撃つために、日頃の生活の中へ防災のエッセンスを加えるとともに、素早く災害対応ができる組織的な備えを推進する。

- 日頃の生活の中で、災害に備える家庭の取組（住宅の耐震化、家具の固定や備蓄）をサポートする。
- 24時間まちの安全安心を見守る（まちの安全を照らす）体制づくり及び初動体制づくり

3.3 行動指針

基本方針の下、テラスが取り組んでいく事業の方向性を示していく。

- 住民の誰もが取り組むことができ、元気になる場をつくる。
 - ・ 特に女性の視点を重視した防災啓発活動の推進
- 「防災」をキーワードに住民や地域、多様な地域活動の担い手、事業所などをつなげる。
 - ・ 住民の互助、共助に根差した防災交流の拠点づくり
 - ・ 地域による要配慮者の支援方法の確立
- 学びの場を通じて、継続したレベルアップを図る。
 - ・ 中学生が安全を確保しつつ、支援活動もできる防災学習の推進
- 24時間見守り、迅速に災害対応ができる体制をつくる。
 - ・ いつ災害が発生しても、行政が迅速に災害対応できるような体制づくりの推進

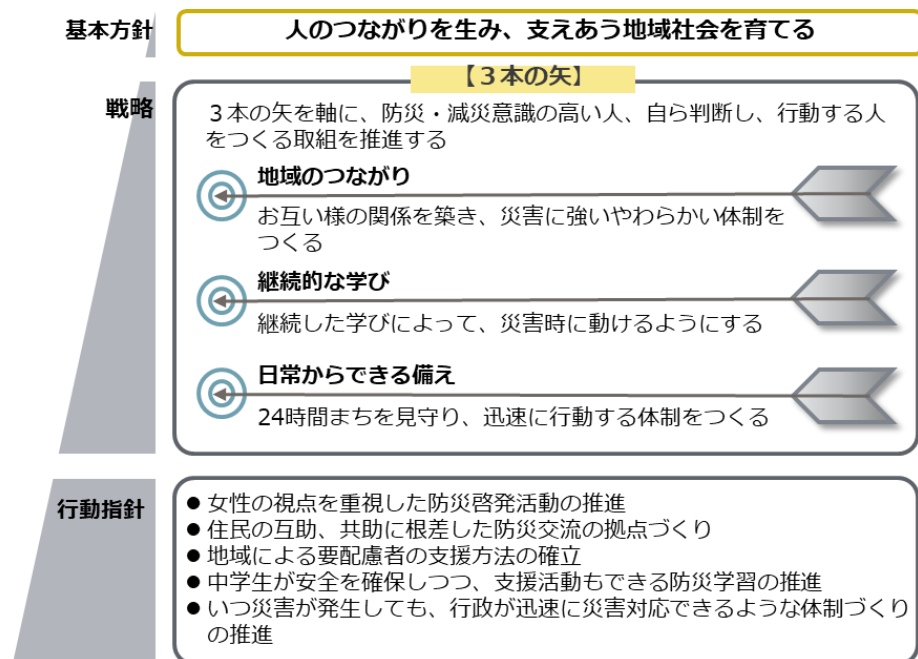


図 3.1 テラス運営の体系図

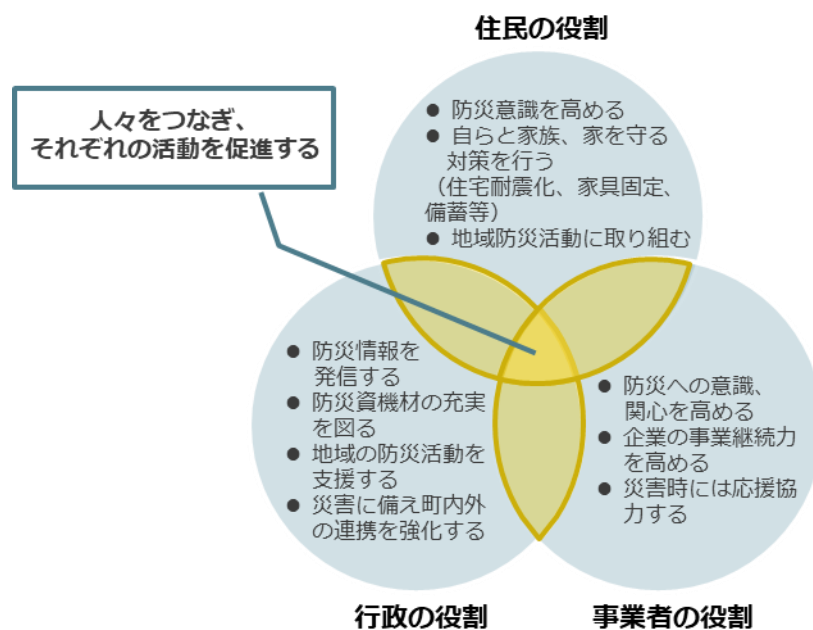


図 3.2 テラス運営の行動指針

4 事業概要

テラス活動によって目指す「災害に強いひとづくり」とは、個々が災害に打ち勝つような強靱な肉体を持つ人をつくることではない。自発的に様々な人が協力し合い、災害等の非常事態を乗り越えることができる人々をつくることであり、そのための防災に触れ、学ぶことができる環境を創出することを指す。

テラスでは、人的ネットワークや社会情勢の変化に合わせて、個々の啓発活動の拡充（図 4-1 左下）と事業領域の拡大（同図右下）を戦略的に推進し、「災害に強いひとづくり」を目指している。

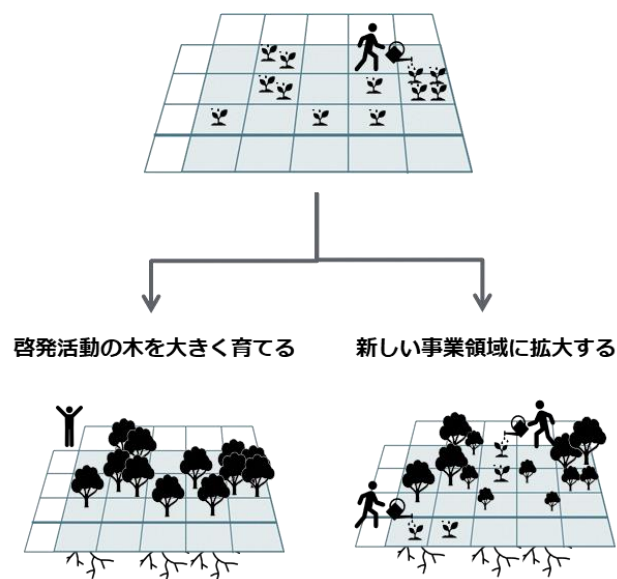
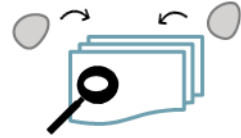


図 4.1 幸田町の防災啓発活動の成長・発展のイメージ

1 現状分析 **種を集める**

課題解決の源泉となる種（問題）を集める。

幸田町の防災力向上の問題点を探し、集め、分類整理をする。



2 検討準備 **土を耕す**

土を耕し、育てる土壌をつくる。

活動の力ギとなる人、知恵やノウハウを持つ人を探す。人々との交流を図る。企画への参加を働きかける。

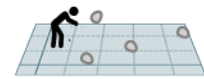


3 対策立案 **種を蒔く**

種を蒔く。

テラスの基本方針に則り、どのような活動を企画、立案するか検討する。

事業領域をどのような企画（対策）で埋め、成長と実りが循環する防災事業を展開するか検討する。



4 対策推進 **木を育てる**

根を張る木に育てる。

ステップ1～5（※1）のテラス活動を進める。いかに、関係者との議論を深化させ、信頼関係を構築するかが、活動の要点となる。



5 成果が生まれる **実が成る**

実が成る。

検討や訓練の結果（対策への理解や習熟）を得ると同時に、成果の共有、展開を図る。



6 災害に強いひとづくりの環境を活用する **森にする**

森にする。

作ってきた環境を活用し、災害に強いひとづくりのレベルアップを図る。



図 4.2 テラス活動が目指す「災害に強いひとづくり」にいたる道筋

5 体制

5.1 体制の考え方

テラスが「災害に強いひとづくり」を目指す中で、①災害が起きる前の事前計画と備えができること（平常時）、②災害が発生した時に自ら考え身を守ることができること（災害時）の2つの側面を持つこととする。この2つの側面からテラスが果たす役割を「自助」「共助」「公助」の視点から設定する。

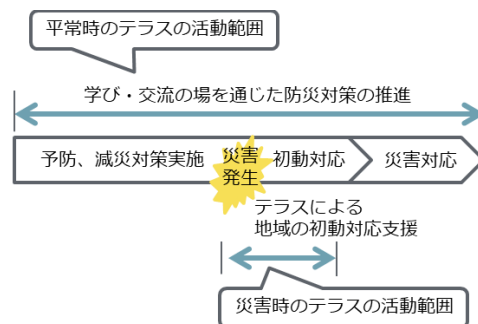


図 5.1 テラスの活動範囲

5.2 体制

(1) 平常時の役割と体制

① 役割

テラスは、平常時においては、防災啓発・普及活動、防災教育等を実施する。また、地区や個人、事業所等が自ら取り組む防災対策等を支援する。なお、これらの取組がより効果的に実施されるよう、関係団体等を巻き込み、「つながり」のある防災対策を推進する。テラススタッフ及びテラスサポーター（以下、「テラサポ」という。）と、地域・住民が主体となって活動を行う。「防災」をキーワードとした交流や活動を通じて、多様な地域活動との「つながり」も段階的に広げ、防災意識の高い人を増やしていく。

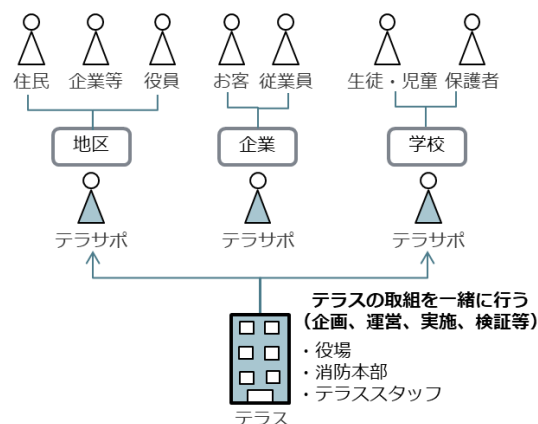


図 5.2 テラスの平常時の役割

② 体制



図 5.3 体制図

(2) 災害時の役割と体制

① 役割

災害時に、迅速な初動対応を行うためには、町災害対策本部の速やかな設置が求められる。特に大規模災害発生時は、役場（町の行政）機能が素早く災害に対応していることにより、住民に安心感を与え、落ち着いた行動につながる。また、被災現場となる地域の初動対応を把握することは、災害情報の収集と分析において、非常に重要である。

そのためにも、いつ災害が発生しても迅速に初動体制を構築できるよう、24時間職員が配置されている消防本部にテラス担当職員を配置する。また、平常時においてはテラスの学習や交流の場を通じて、地域の人や組織、事業所などの事前対策の状況を把握し、地域と連携した、より適切な初動対応が可能となる仕組みづくりを進めていく。

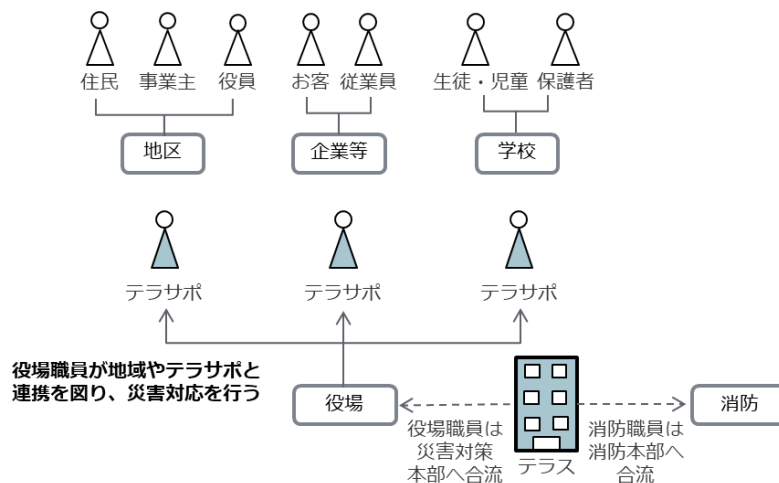


図 5.4 テラスの災害時の役割

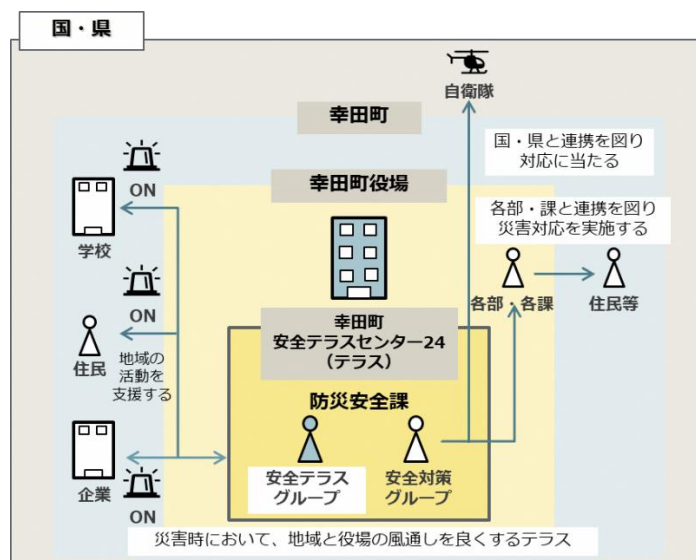


図 5.5 災害対策本部におけるテラスの役割

② 体制

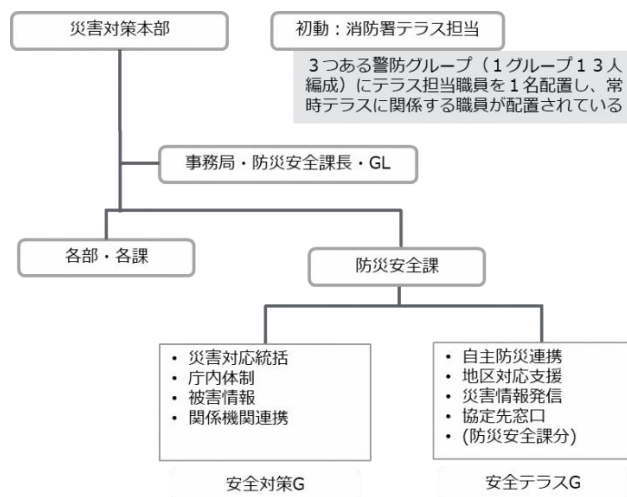


图 5.6 体制图

(3) テラサポ

テラサポとは、「個人のスキル」や「得意なこと」、「取り組んでいること」などを軸として、啓発活動に「協力した」「関わった」すべての人、関係者である。

平常時には、テラスと共同で実施する啓発活動を通じて交流を深める。テラサポは、様々な立場の人に加え、外部の人を巻き込んだ活動を行う。テラサポ同士がテラスや地域等と横につながることで、お互いに課題共有しながら、防災対策や災害対応を実施する。テラスは、テラサポへの活動支援や活動意欲を向上させる取組を行い、テラサポをフォローする。

災害時には、これまでの活動を活かし、自らの安全確保のために必要な対策を講じた上で、地域の初動対応等とともに、支援が必要な人の声を聴き、その声を地域や役場に届け、共助・公助を支援する。

そして、将来的にテラサポは、防災のみならず、多様な分野への拡充と育成を検討し、日常生活の質の向上や支え合う地域福祉を広げるなど、暮らしやすいまちづくりへの協力を視野に入れる。

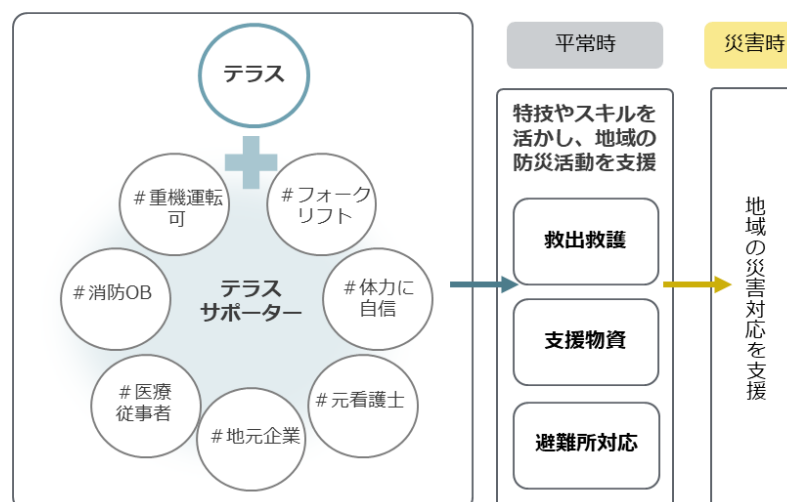


図 5.7 テラサポーターとテラスとの関わり方

テラスの活動は、テラサポの知恵とノウハウを活用することで、より効果的な活動に発展させることができる。そのため、活動を計画する際には、その分野を得意とする関係者等を巻き込むことに配慮し、テラサポとして、ともに活動することで、活動の活性化を図る。

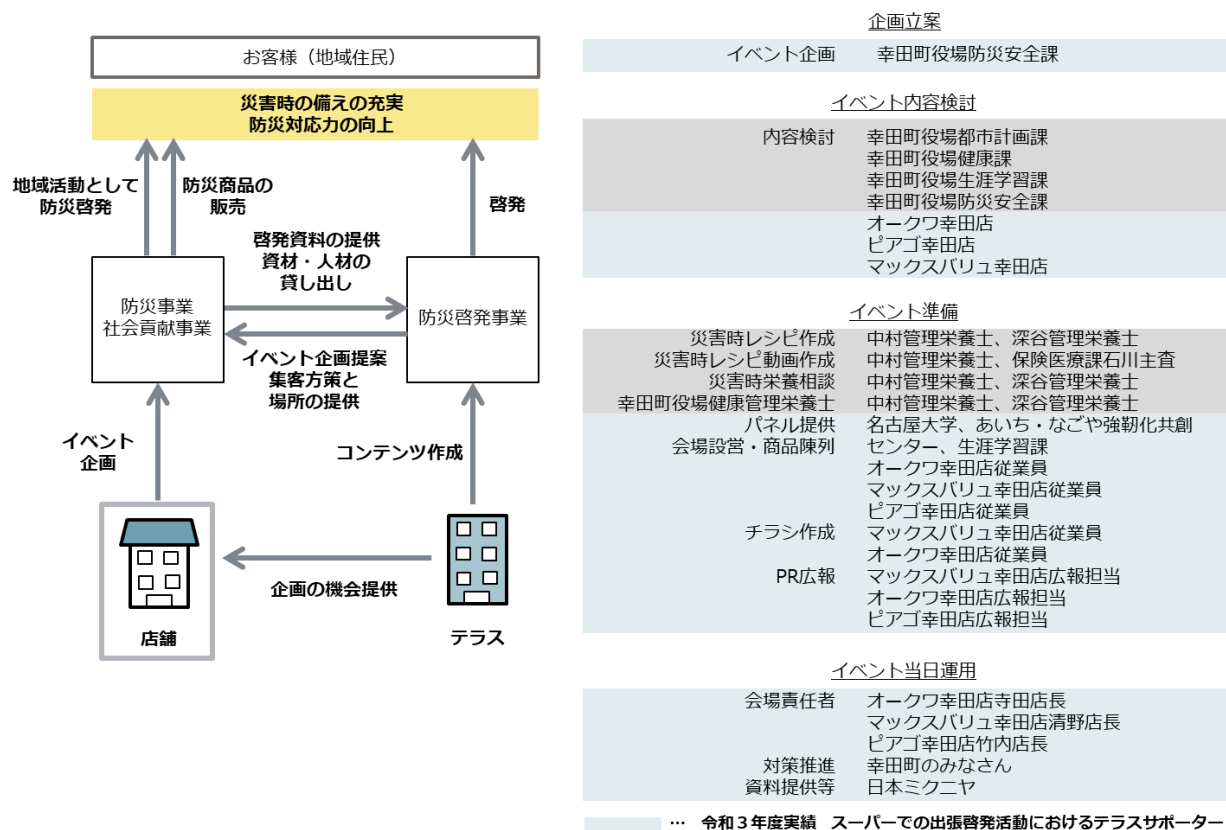


図 5.8 テラスサポーターと連携したテラス活動の事例

6 交流の場が作る啓発活動

テラスの活動は、防災に関する地域の課題と活動内容をマッチングさせることが重要である。テラスは、必要な取組における活動の場を地域に提供し、支援していく。この活動は、タイプAからタイプDの4種類に分けられる。

- ・タイプA：情報提供型
- ・タイプB：対策指導型
- ・タイプC：課題共有型
- ・タイプD：活動連携型

これまで本町は、主にタイプAとタイプBの行政主導の防災啓発活動を進めてきた。

テラスの活動は、地域に出向いて、交流の場を作り、そこで生み出されたものが、防災に資することを基本とし、地域防災を支える人同士の交流や連携を構築できる仕組みを作ることである。今後は、テラスが中心となってタイプA及びタイプBに加え、タイプC及びタイプDの啓発活動を行う。また、様々な立場の人が参画しやすいような環境をつくり、これまで以上に多様な主体と連携した取組を進めていく。「ついで防災」や「コツコツ防災」ということを意識しながら、生活の一部として防災活動を進めていく。

なお、現在（令和4年2月）までに実施している啓発活動を以下に示す。

表 6.1 実施中の啓発活動

NO	対応すべき課題（種）	啓発活動名	
①	地区防災意識の向上	1	地区防災訓練支援
②	自主防災組織の形骸化	2	自主防災組織と活動の見直し
③	女性への防災啓発活動の機会が少ない	3	企業と連携した防災啓発
④	危機意識の低下	4	地域研修会の運営支援
⑤	計画・マニュアル等の未整備	5	地区防災計画作成支援
⑥	災害時避難行動要支援者の支援方法確立	6	災害時避難行動要支援者地図情報作成
⑦	小中学校における防災研修の推進	7	学校・保育園への防災研修
⑧	保育園防災対策が進んでいない		
⑨	小中学校における防災教育の推進	8	生徒児童向け防災講話-防災教育クロスロード
⑩	家庭の防災対策が進まない	9	防災講習会 講師派遣

(1) タイプA：情報提供型

タイプAは、「情報提供型」の啓発活動である。防災活動に必要な情報を提供するもので、災害時要支援者情報の提供やハザードマップの配付等がそれにあたる。



図 6.1 情報提供型：タイプA

(2) タイプB：対策指導型

タイプBは、「対策指導型」の啓発活動である。防災に必要な知識、ノウハウ等を指導するもので、外部の専門家を講師に招いたり、防災学習のコンテンツを使用した防災セミナーや講習会等の機会を設ける。防災研修会や防災講話等がそれにあたる。

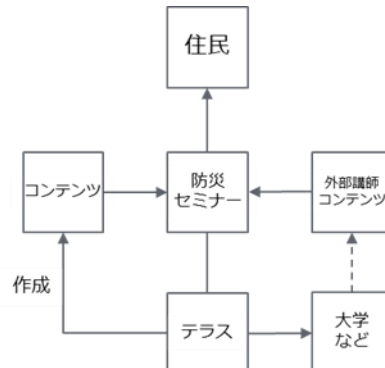


図 6.2 対策指導型：タイプB

(3) タイプC：課題共有型

タイプCは、「課題共有型」の啓発活動である。主体となる団体等とテラスが防災対策の問題点を共有し、効果的で実現可能な対策を共に考えるものである。活動は、日頃のコミュニケーションや勉強会を通じて、問題意識を共有することからスタートする。自主防災組織や防災訓練の見直し、まちあるき等がそれにあたる。

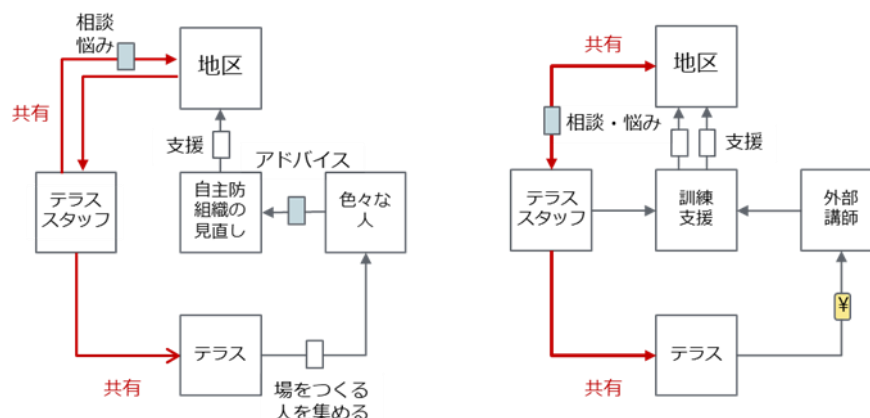


図 6.3 課題共有型：タイプC

(4) タイプD：活動連携型

タイプDは、「活動連携型」の啓発活動である。テラスと企業等が共に啓発活動等を企画し、お互いの強みを活かし、活動を実行するものである。地域の課題解決に向けた活動を、そこに存在する企業等がともに取り組むことで、地域への社会貢献につながり、相互の理解と協力体制の構築を目指す。このような関係は、企業に限らず、様々な団体にも当てはまることから、テラスは企業等と連携した啓発活動を進めていく。

活動は、パートナーづくり、問題意識の共有、自発的に取り組みたくなる有機的な関係性の構築が重要となる。学校等の防災教育、企業と連携した啓発活動等がそれにあたる。

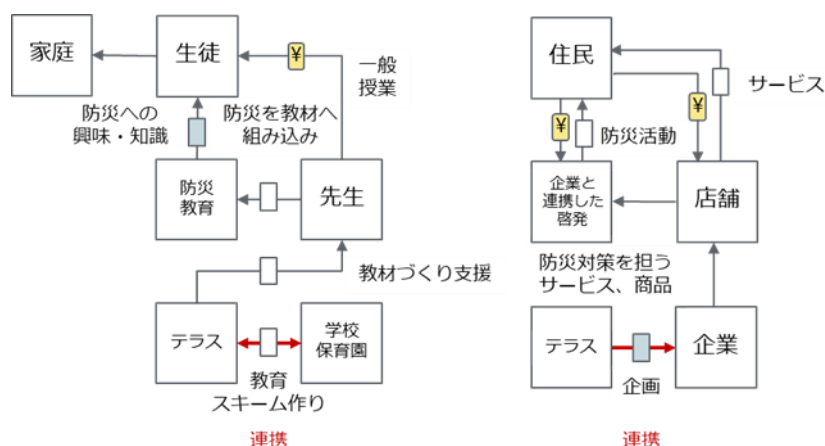


図 6.4 活動連携型：タイプD

7 テラスサポーターを巻き込む活動

地域防災を支える人同士の交流や連携を構築できる仕組みを作るためには、交流の場を作り、防災啓発活動を進めることに加え、住民の関心・興味を高めることが重要である。

現状において、住民の防災意識が高いとは言えないが、積極的に防災活動を進めている地域や組織も存在している。テラスは防災活動に積極的な人々を巻き込み、その人々が、関心が低い人を巻き込んでいく、そのような取組を進めていく。

7.1 テラスによる広報活動

(1) 広報誌

テラスの活動を広く住民に周知するため、「広報こうた」等で活動状況を周知する。



図 7.1 広報幸田での特集（2020年12月号）

(2) SNSによる広報

タイムリーな情報発信を行うため、フェイスブック及びインスタグラムを活用し、日頃の取組を周知する。

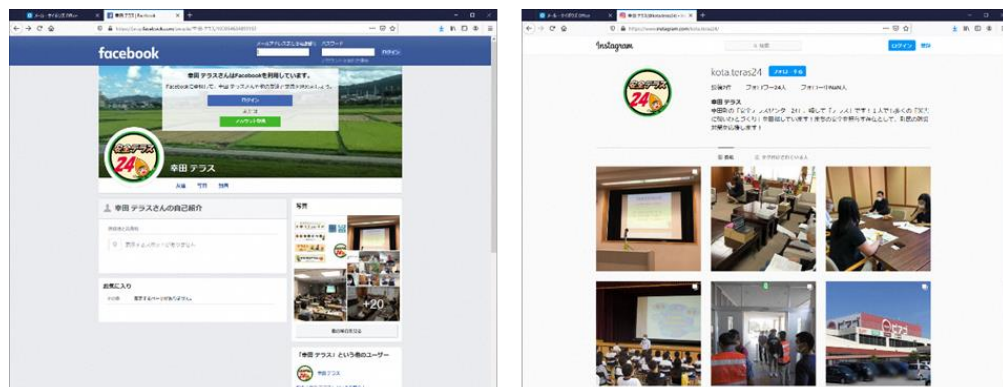


図 7.2 SNSを活用した広報

(3) ノベルティによる周知

多くの住民にテラス活動に参画してもらうには、まず、テラス自体を認知してもらうことが必要である。防災対策の重要性を伝えるだけでなく、まずは、住民のテラス活動に対する興味・関心を効率的に引き付けるため、啓発活動時にノベルティを添えて告知・宣伝する。また、ノベルティをテラサポに配布し、活用してもらうことで、テラスとのつながりを発信する。



図 7.3 令和2年度作成ステッカーの事例

7.2 様々な主体による広報活動

(1) 報道機関

新聞社やテレビなどの報道機関に対し、テラス活動を紹介し、話題として取り上げてもらうことで、町内外にテラスの取組を広く周知する。



図 7.4 三河湾ネットワーク（ケーブルテレビ）での放映

(2) 住民、地域及び企業等（テラサポ）独自のツール

地域の回覧板や学校等のお便り、企業の広告等と連携してテラス活動を周知する。

日頃から目にする媒体（お知らせやチラシ）に、テラス活動（啓発活動）を掲載することで、生活の一部としての防災活動が認知される。



図 7.5 チラシ等への掲載

8 テラス運営計画

テラスの活動は、平常時の「啓発活動」、「テラサポを巻き込む活動」及び「テラス自体の運営」、並びに災害時の「初動対応」の4つがある。

これらの4つの活動を効率的に実行していくために、中長期及び短期的（単年度）な計画の基、テラスを運営する。

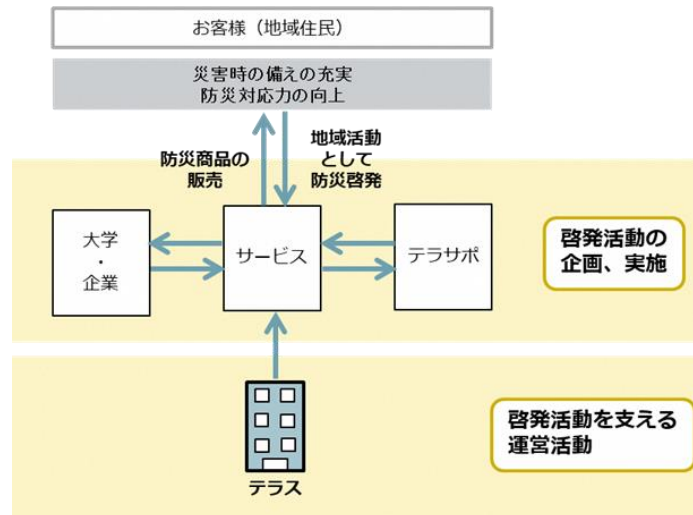


図 8.1 テラス運営のイメージ

8.1 テラスアドバイザー

テラスの設置について検討を行ってきた「幸田町安全テラスセンター24設置専門委員会」の委員を「テラスアドバイザー」として、テラスの運営や活動、それらの評価、指導等をいただく。

なお、テラス運営スタート時におけるアドバイスは以下のとおりである。

- 「元気な幸田町」、このマインドを持ち続けることがとても大事である。
- 福祉だけでなく多様な分野の支援拡充が、いざというときに役に立ち、普段から暮らしやすい町につながっていく。
- 地域を歩きながらその場所の歴史を知っていくような取組が、地域への関心を向上させ、防災啓発活動につながる。
- 「テラスマーケット」を開催して、企業と地域が連携してブースを出し、売り上げの一部をテラスの運営に回すというのもできたらいい。
- 防災チャレンジプラン等に参加し、対外的なPRを行う。
- テラサポは、「伝える人」でもあり「聴く人」でもあることが必要だろう。支援が必要な人の「声」を聞くことが上手いかわからない地域で、手を変え品を変え、「声」が聞こえるようにしていくことも役所では出来ないことなので、テラサポでやってもらいたい。

- テラサポの交流会が、テラスアドバイザー等に褒めてもらう場、他地域とつながる場に
し、参画への動機付けにする。
- 被災地といろんな形でつながると良い。機会があれば、テラススタッフも行って勉強する
と、新しい展開ができる。
- 女性、先生、外からのアドバイザー、そのもっと外の人を巻き込む。TEAM防災ジャパ
ンやチャレンジプランの方々も巻き込めるといい。
- 来年度以降のアドバイザーの活動については、「アドバイザーは、(年度内に) 一度は、同
じ時に幸田町に居なくてはいけない」というイベントを実施する。活動は続けることが必
要で、そのためには面白いことが常に出てこないといけない。毎年、新規項目をどう作る
かが重要である。

表 8.1 実施事項

実施サイクル	項目	内容
中長期サイクルで実施	課題確認・目標の設定	総体的な現状分析（各主体の状況及び課題） ・アンケート調査 ・現地踏査 ・ヒアリングの実施
		目標の設定
	課題進捗確認	課題解決に向けた進捗状況確認
	協力体制の構築	関係者との信頼関係の構築 関係性を継続する組織の認識統一（テラス及び関係者）
	啓発活動の更新・開発	固定化しない仕組みや仕掛けの研究
	人材育成（スキル取得）	テラススタッフの防災に関する新たな知識、知見及びノウハウの習得
年間サイクル実施	事業計画の遂行	目的・目標の確認 目的意識の共有 役割分担の確認・調整 社会情勢及び法改正等の情報収集 社会情勢を鑑みた方針決定・見直し
	庁内への活動共有	庁内会議
	関係者への説明	テラサポメンバーへの挨拶、活動情報の共有、フォロー
	活動評価	振り返り及び年間進捗確認 中長期計画の進捗確認
	次年度計画の立上げ	方向性、テーマ及び重要事項の決定 啓発活動の優先順位の付与
	予算の計上	啓発活動予算 テラス運営予算
	次年度計画の準備	説明及び意見交換 企画立案 内部部署及び関係者間の調整
	定期的な情報提供	広報掲載/SNS更新 定期メール（タウンメール）
	テラサポの巻き込み	テラサポへの広報 活動に関する説明会及び打合せ等の実施
	周知活動	ユニフォームやノベルティ等の作成 チラシの配布やポスター等の作成 SNSの活用やタウンメール等の送付

8.2 年間計画

今年度以降のテラスの運営は、年間計画に基づいて計画的に行う。

○…必要に応じて、随時 ●…実施月

項目	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業計画の遂行	目的・目標の確認	●											
	目的意識の共有	●											
	役割分担の確認・調整	●											
	社会情勢、法改正等の情報収集（随時）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会情勢を鑑みた方針決定・見直し（随時）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
庁内への活動共有	庁内会議		●					●					●
関係者への説明	テラサポメンバーへの挨拶	●	●	●									
	活動情報の共有、フォロー（随時）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
活動評価	振り返り、年間進捗確認					●	●						●
	中長期計画の進捗確認					●	●						
次年度計画の立上げ	方向性、テーマ、重要事項の決定						●	●					
	啓発活動の優先順位の付与						●	●					
予算の計上	啓発活動予算							●	●				
	テラス運営予算							●	●				
次年度計画の準備	説明及び意見交換								●	●	●	●	●
	企画立案									●	●	●	●
	内部部署及び関係者間の調整									●	●	●	●
定期的な情報提供	広報掲載（随時 or 毎月啓発）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テラサポの巻き込み	S N S 更新	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
周知活動	定期メール（タウンメール）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●